令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団
施設名	北九州市立響ホール
内定額	15,613　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型(公演・人材・普及)が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　業　名	実施日程	実施会場
公-01	創造公演事業「響シリーズ2025」(2公演)	令和7年7月5日(土) 令和8年2月8日(日)	北九州市立響ホール
公-02	創造公演事業「世界へ羽ばたく若手演奏家公演」(3公演)《北九州国際音楽祭》	令和7年11月9日(日) 令和7年11月15日(土) 令和7年11月29日(土)	北九州市立響ホール
公-03	創造公演事業「オリジナル室内オーケストラの編成」《北九州国際音楽祭》	令和7年11月23日(日)	北九州市立響ホール
公-04	公演事業「響シリーズ2025」(2公演)	令和7年6月21日(土) 令和7年12月20日(土)	北九州市立響ホール
公-05	公演事業「世界のアーティスト招聘公演事業」(2公演)《北九州国際音楽祭》	令和7年10月18日(土) 令和7年12月7日(日)	北九州市立響ホール
公-06	公演事業「地域の文化拠点を活用した招聘公演事業」(1公演)《北九州国際音楽祭》	令和7年11月5日(水)	西日本工業倶楽部 (国指定重要文化財)
公-07	響ホール企画 「響ホールへようこそ！」(3公演)	令和7年7月2日(水) 令和7年9月11日(木) 令和8年2月13日(金)	北九州市立響ホール
人-01	アーツスタッフ養成講座(2事業)	令和7年6月4日(水) 令和7年6月5日(木) 令和7年8月26日(火)	北九州市立響ホール
人-02	中学校合唱講習会	令和7年7月23日(水) 令和7年7月24日(木)	北九州市立響ホール
人-03	早期教育事業	令和7年8月9日(土) 令和8年2月21日(土)	北九州市立響ホール
普-01	響ホールインクルーシブ事業	令和7年10月7日(火) 令和7年10月8日(水)	北九州市立響ホール
普-02	アウトリーチ コンサート(14回)	令和7年7月～令和8年1月	障害児発達支援施設、介護老人保健施設、障害者支援施設、総合療育センター、小中学校、市民センター、私立幼稚園 ほか
普-03	子ども育成 創造事業(2事業) 《ホール事業／音楽祭事業》	令和7年8月10日(日) 令和8年1月24日(土)	北九州市立響ホール
普-04	公演事業がより楽しくなる講座(1事業/5回シリーズ) 《ホール事業／音楽祭事業》	令和7年5月～令和8年1月	北九州市立響ホール 西日本工業大学小倉キャンパス
普-05	地域連携事業　ひびきつながるプロジェクト	令和7年10月12日(日) 令和8年3月1日(日)	関門海峡ミュージアム 北九州市立八幡図書館

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	21	22	19
	公演事業	7	7	7
	（内、本助成対象事業本数）	7	7	7
	人材養成事業	3	3	3
	（内、本助成対象事業本数）	3	3	3
	普及啓発事業	5	7	5
	（内、本助成対象事業本数）	5	7	5
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　共催・受託事業	6	5	4

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	153	177	177
	ホール名：大ホール　座席数：720	153	177	177
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	13,993	12,885	11,705
	公演事業	9,907	8,464	6,040
	人材養成事業	356	350	506
	普及啓発事業	3,730	4,071	5,159
	共生社会事業			
	その他　内容：	—	—	—
	貸館事業入場者・参加者数	14,081	16,400	16,249
	その他　内容：　共催・受託事業	2,376	2,600	2,841
	計	30,450	31,885	30,795
開館日数		359	360	359
施設の利用可能日数　（＝365－（保守点検日数+休館日数））		309	309	311
施設の利用日数		296	304	308
施設の利用率(%)　（＝利用日数/利用可能日数）		95.8%	98.4%	99.0%

備考	※2には、響ホール施設外で行った主催事業の入場者・参加者数を含む

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	7	17	9,907		7					
	共催・提携公演（※2）	4	12	5,787		4					
	貸館公演	36	39	10,000		34					2
	計	47	68	25,694							
令和6年度	主催公演（※1）	7	15	8,464		7					
	共催・提携公演（※2）	5	10	5,708		5					
	貸館公演	41	44	10,535		40					1
	計	53	69	24,707							
令和7年度	主催公演（※1）	7	14	6,040		7					
	共催・提携公演（※2）	4	9	2,841		4					
	貸館公演	42	62	16,249		38					4
	計	53	85	25,130							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	創造公演事業「響シリーズ2025」（2公演）	目標値	930	75.0%	観客の満足度	「大変満足」「満足」の割合 95%以上	「大変満足」「満足」の割合 89.5%
		実績値	855	65.5%	本公演に関する感想と邦楽公演の鑑賞の有無	企画意図と合致した感想の記述	企画意図と合致した感想の記述 アンケート回答132件中 78件
公-02	創造公演事業「世界へ羽ばたく若手演奏家公演」（3公演）《北九州国際音楽祭》	目標値	1,249	59.4%	観客の満足度	「大変満足」「満足」の割合 95%以上	「大変満足」「満足」の割合 94.3%
		実績値	1,430	68.0%	北九州市外からの来場者の割合	20%以上	35.3%
公-03	創造公演事業「オリジナル室内オーケストラの編成」《北九州国際音楽祭》	目標値	650	92.7%	観客の満足度	「大変満足」「満足」の割合 95%以上	「大変満足」「満足」の割合 96%
		実績値	567	80.9%	オリジナル室内オーケストラの公演に関する感想	企画意図と合致した感想の記述	企画意図と合致した感想の記述 アンケート回答83件中 71件
公-04	公演事業「響シリーズ2025」（2公演）	目標値	920	80.0%	観客の満足度	「大変満足」「満足」の割合 95%以上	「大変満足」「満足」の割合 90.5%
		実績値	875	70.7%	今後の来場意向	90%以上	95.5%
公-05	公演事業「世界のアーティスト招聘公演事業」（2公演）《北九州国際音楽祭》	目標値	1,200	85.6%	観客の満足度	「大変満足」「満足」の割合 95%以上	「大変満足」「満足」の割合 94.1%
		実績値	1,189	85.0%	北九州市外からの来場者の割合	20%以上	38.0%
公-06	公演事業「地域の文化拠点を活用した招聘公演事業」（1公演）《北九州国際音楽祭》	目標値	93	94.9%	観客の満足度	「大変満足」「満足」の割合 95%以上	「大変満足」「満足」の割合 96%
		実績値	93	93.0%	ホールとは異なる空間での演奏会に関する感想	企画意図と合致した感想の記述	企画意図と合致した感想の記述 アンケート回答21件中 4件
公-07	響ホール企画 「響ホールへようこそ！」（3公演）	目標値	1,140	75.0%	観客の満足度	「大変満足」「満足」の割合 95%以上	「大変満足」「満足」の割合 92.6%
		実績値	1,031	56.8%	新規来場者の割合	10%以上	43.0%

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団
施設名	北九州市立響ホール
内定額	15,613　（千円）

（１）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※１）を記入してください。

（※１）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	創造公演事業「響シリーズ２０２５」（２公演）	邦楽・洋楽双方の高度な演奏と多彩なプログラムにより、来場者が「感動」「新鮮」「貴重」と強く共感し、クラシック室内楽と日本伝統音楽の双方に対する理解・関心が大きく高まった。特に、和洋の共鳴や一流演奏家の共演が高く評価され、響ホールの音響的価値と文化発信力を再認識させる成果の大きい事業となった。
公-02	創造公演事業「世界へ羽ばたく若手演奏家公演」（３公演）　《北九州国際音楽祭》	３公演では、若手が高度な技術・独自の解釈・国際的な経験・新作への挑戦を通じて多面的な才能を示し、市民の「若手を応援したい」という意識が高まった。若手の成長と地域文化が支え合う“文化の循環”が生まれつつある。これは創造公演事業の理念である「芸術家の創造性を尊重し、新しい舞台芸術を生み出し、地域社会と未来に広く還元する文化の循環をつくること」を実質的に体現した成果であり、今後の発展を示す一歩となった。
公-03	創造公演事業「オリジナル室内オーケストラの編成」　《北九州国際音楽祭》	本事業は、「若手育成」「創造性」「地域文化」「ホール特性」が有機的に結びついた、北九州国際音楽祭の中核事業である。 10 年以上の継続により、育成成果、音楽的成果、地域文化への定着、響ホールとの高い親和性が確かな形で積み上がってきた。本事業は、響ホールが全国に誇るべき文化資産であり、継続する意義が極めて大きい。
公-04	公演事業「響シリーズ２０２５」（２公演）	２つの公演は、異なる音楽ジャンルの魅力を高い水準で市民に届け、深い感動と学びを生み出すとともに、響ホールの音響価値と企画力を強く示した。アンケートにより、幅広い世代の参加と高い再来場意欲が確認され、地域の文化的活力と音楽人口の裾野拡大に寄与した取り組みとなった。
公-05	公演事業「世界のアーティスト招聘公演事業」（２公演）《北九州国際音楽祭》	“世界の芸術を北九州で体験できる”という国際音楽祭の存在意義を明確に示し、市民の文化的満足度・都市ブランド・国際的発信力のいずれにおいても高い成果を上げた。特に、世界的アーティストの招聘、国際的な共演による唯一無二の体験、広域からの来場、市民の誇りの醸成、若手育成理念の浸透といった点で、“国際”“世界”を冠する事業として高い効果を発揮した。
公-06	公演事業「地域の文化拠点を活用した招聘公演事業」（１公演）《北九州国際音楽祭》	本公演は、地域の文化拠点を活用し、若手演奏家の魅力を間近で体験できる“サロン型の特別な音楽体験”を提供した。参加者の満足度は非常に高く、若手アーティストの発掘・紹介、専門性の高いプログラムによる芸術的価値の創出、広域からの来場による文化交流という音楽祭の目的に合致した成果が得られた。
公-07	響ホール企画　「響ホールへようこそ！」（３公演）	３公演を総合すると、「高い芸術性」「わかりやすいトーク」「初心者にも開かれた構成」「多文化理解の促進」「ホールの音響と企画力の発信」を同時に実現した、意義の高いシリーズとなった。市民の文化的学びと感動を生み、響ホールのブランド価値を高め、地域の音楽文化の発展に大きく寄与した。

（2）自己評価

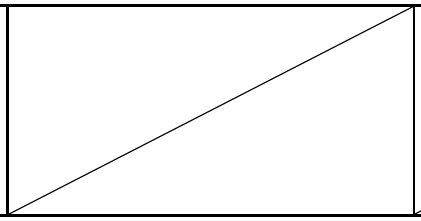
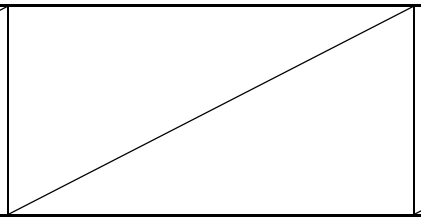
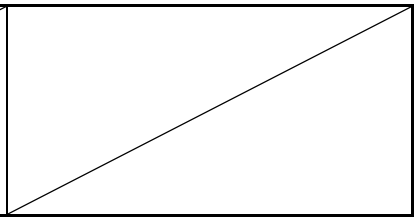
評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	・全公演の平均満足度	・来場者アンケートで「大変満足」「満足」と回答した割合 平均 95%以上	・92.6%
	・公-02,05 の市外来場者数	・該当事業の市外来場者 平均 20%以上	・公-02：35.3%、公-05：38%
	・公-03 オリジナルオーケストラ公演対する感想（満足度）、出演アーティストに対する愛着や評価など、来場者の反応。	・該当事業の来場者アンケートで企画意図と合致した感想 10 件以上	・71 件（感想欄の記入件数：全 83 件）
	・年間のオリジナル公演実施回数	・8 回	・8 回
人材養成事業	・人-01 参加者の理解度	・[人-01]研修アンケートで「よく理解できた/理解できた」と回答した割合 85%以上、	・95.8%
	・人-02 中学校合唱講習会の参加教員の反応	・[人-02]アンケートで「生徒への指導力の向上に役だった」と回答した割合　90%以上	・100%
	・人-03 内容の満足度	・[人-03]「大変満足」「満足」と回答した割合 95%以上	・100%
普及啓発事業	・参加者の満足度と来場者の反応	・参加者アンケートで「大変満足」「満足」と回答した割合 95%以上、「今後も参加したい」、「クラシック音楽に興味・関心を持った」と回答した割合 90%以上	・「大変満足」「満足」と回答した割合：92.5% 「今後も参加したい」「クラシック音楽に興味・関心を持った」と回答した割合：89.4%
	・普-03 の入場率、満足度	・[普-03]入場率 90%以上、満足度 80%以上	・入場率：72.9%(8/10 実施事業は集中豪雨の影響が大きい) 満足度：94.5%
	・普-04 応募数、来場者の反応	・[普-04]応募数 360 名以上(定員数 240 名)、来場者アンケートで「他の主催公演に行ってみたい」と回答した割合 90%以上	・応募数：400 名 「他の主催公演に行ってみたい」と回答した割合：94.9%

共生社会事業			

（※３）・（※４）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	満足度は 92.6% と目標（95%以上）に未達だったが、全体として高評価を維持した。市外来場者割合は 公-02：35.3%、公-05：38% と目標を大きく上回り、広域的な集客が進んだ。公-03 では、企画意図と合致した感想はのべ 71 件と多く、質的成果が明確に確認できた。これは、長年継続してきたオリジナル室内オーケストラ公演の価値が来場者に浸透したものと考える。オリジナル公演は 年間 8 件を達成し、創造発信の継続性も確保した。今後は満足度向上に向けた体験価値の強化が課題である。 本事業は、広域的な集客、オリジナル公演の質的成果、創造発信の継続性 において高い成果を上げた一方、満足度のさらなる向上に向けた改善が必要である。今後は、得られた来場者の声を分析し、体験価値の深化とリピーター育成につながる取り組みを強化することで、より持続的な事業成果に繋げたい。

人材養成事業	
自己評価	【人-01】2 種類の講座を通じて、受講者は接遇力・配慮・所作・声かけなどアーツスタッフに必須の実践力を総合的に向上させることができた。体験性と専門性が高く、現場対応力を強化する効果的な養成プログラムとなった。 【人-02】アンケートでは、発声指導の即効性や実践的内容、学校で再現しやすい指導法が高く評価された。生徒からも、他校の指導を聴く刺激や講師からの称賛が意欲向上につながったとの声があり、教育的効果が高い講習会となった。 【人-03】アンケートでは、レッスンや演奏の質への高い満足度と、指導法の学びや人材育成への意義を評価する声が多く寄せられた（例：「大変満足」90.9%）ことから、本事業は教育的価値が高く、地域の音楽文化振興に寄与する取り組みとなったと考える。

普及啓発事業	
自己評価	本事業は、いずれの企画でも 満足度が 9 割前後と非常に高く、提供した体験の質は高く評価された。応募数 400 名など、事業への関心も十分に確保でき、クラシック音楽への興味喚起という目的にも一定の成果が見られた。 一方で、入場率 72.9%は、実施日当日(8/10)に、集中豪雨予報が発表されていたことによる来場控えの影響が大きく、目標未達となった。 全体としては、普及啓発としての入口づくりには成功し、内容面の評価も高い一方、継続的な関係構築に向けた仕組み強化が今後の課題である。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
・海外を主な活動拠点とする演奏者の招聘人数(邦人含む)	・招聘人数　15 人	・招聘人数　16 人
・海外演奏家と邦人演奏家との共演企画数	・共演企画数　５件	・共演企画数　５件
・クラシック音楽とその他のジャンルとの融合企画数	・融合企画数　２件	・融合企画数　２件
・クラシック音楽以外のジャンル企画数	・クラシック音楽以外のジャンル企画数　１件	・クラシック音楽以外のジャンル企画数１件

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	評価指標の目標値を全て達成し、一定の水準を十分に達成したと評価できる。世界的アーティストの招聘や国際共演を通じて“世界の芸術を北九州で体験できる”ことを示し、文化的満足度・都市ブランド・国際発信力の向上に寄与した。広域からの来場や市民の誇りの醸成、若手演奏家の成長支援により“文化の循環”も生まれつつあり、国際性を核とした文化施策として一定の成果を挙げることができた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	貸館でのインターネット予約・抽選システムの活用や、催事開催にかかるきめ細かいサポート体制の整備
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
・貸館利用者の満足度	・利用者アンケートの満足度 95%以上	・利用者アンケートの満足度 100%
・北九州市内の施設を会場として利用する件数（アウトリーチを除く）	・3 件（前年度実績 5 件）	・3 件
・地域文化拠点施設として、事業開催で連携している団体数	・19 団体	・19 団体

（※4）・（※5）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	地域の文化資源を活かしつつ、関係機関との連携を通じて地域文化拠点としての役割を着実に果たした。貸館利用者アンケートでは満足度 100%と、目標（95%以上）を大きく上回る評価を得ており、施設利用環境や事業内容に対する高い信頼が確認された。 また、市内施設を会場とした事業実施件数は目標の 3 件を達成し、地域文化拠点としての機能を市内各地へ広げる取り組みを継続できた。さらに、事業開催における連携団体数は目標の 19 団体を達成し、地域の文化団体・教育機関・関係組織との協働体制が安定的に維持できた。 これらの取り組みにより、地域コミュニティの活性化や文化的価値の共有に寄与し、地域文化拠点としての役割を総合的に果たせたと考える。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
・普-01,03 のコンサートの満足度 ・若年層向けチケット（25 歳以下チケット等）の販売数	・満足度 80%以上 ・前年度実績±5%　（前年度実績 58 枚）	・満足度 95%以上 ・前年度実績+165.5%（154 枚）
・公演事業の学生招待の平均申込人数(先着順)	・前年度実績±5%　（前年度実績 60 人）	・前年度実績+368.3%（281 人）
・多様性とアクセシビリティ企画の実現のために必要なノウハウを培うために研修に参加したスタッフの割合	・100%	・100%

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	プログラムの多様さとしては、普-01・03 のコンサートでは、満足度が目標 80%以上に対し 95%以上と高水準を達成、公演事業でも、約 92%、合わせて市外来場者は、約 33%と、多様なプログラム構成が幅広い観客層に受容された。また、若年層向けチケット（25 歳以下）の販売数が前年度比+165.5%（58 枚→154 枚）と大幅に増加し、新規層・若年層への訴求力が顕著に高まった。 参画者の多様化については、特別支援学校教員、北九州市役所観光分野、商工会議所、教職員団体、教育委員会、市内演奏家、響ホール利用者など、多様な立場の参画を得て横断的な協働体制が強化できた。若年層参加者も前年度比+368.3%（60→281 人）と大きく伸びた。 アクセシビリティでは、施設面の配慮、プログラム上の工夫、アウトリーチを継続し、誰もが参加しやすい環境づくりを推進した。多様性・アクセシビリティに関する研修はスタッフ参加率 100%を達成し、組織の実践力向上につながった。 本年度の普及啓発事業は多様な人々に実演芸術へのアクセスを開き、文化参加の裾野を拡張する取り組みとして極めて高い成果を上げることができた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※2）
	・ ・ ・

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
今回のインクルーシブ公演（普-01）は、市立特別支援学校との連携のもと実施され、スタッフにとってかけがえのない学びと財産となる取り組みとなった。事前に先生方の協力を得て現地での受け入れ準備や動線確認の打合せを行い、子どもたちが安心して参加できる環境づくりを進めることができた。 当日は、障害のある子どもたちが、外出することの難しさを、スタッフが現場で直接感じる機会となった。学校のスクールバスを利用して来場したが、バスの到着から客席への誘導、終演後の退場順やバス乗車の調整など、細やかな配慮が求められた。先生だけでなく、バスの運転手、サポート教員、保護者など多くの関係者の協力に支えられ、無事に公演を終えることができた。 子どもたちのために最良の体験となるよう尽力する先生方の姿勢にも心を動かされ、スタッフは、音楽を通じてこのような貢献ができたことに大きな喜びを感じた。これらの経験は、有料コンサートとは異なる価値を実感する貴重な機会となった。 そして何より、この経験はスタッフ一人ひとりに「次はもっと良い受け入れができるようにしたい」「より多くの子どもたちに音楽体験を届けたい」という強い意欲を生み、今後のインクルーシブ事業に取り組む原動力となった。

（２）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈（ア）～（エ）〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）	・北九州国際音楽祭事業へ地元企業の特別協賛を長年に亘り確保 ・外部資金獲得のため令和７年度から寄付・協賛制度を運用開始	令和７年度有料会員 前年度からの継続率 64.2%
目標(値)（※２）	・視野を拡げ、他事業についても各種助成制度へ応募、活用を検討 ・寄付・協賛制度を通じ地元事業者等との連携強化に努める	有料会員の継続率を維持し、券売の基盤を強化
実績(値)	北九州国際音楽祭事業へ地元企業の特別協賛を令和７年度も確保したほか、文化庁以外に民間団体の助成を獲得。また、寄付・協賛制度の運用開始により３８件の支援を受けた。	令和７年度有料会員のうち、前年度からの継続率は64.2%で、前年度に比べ－9.1%
団体の自己評価	寄付・協賛制度の初年度運用として、地元企業等から賛同を得た。単に支援の獲得にとどまらず、施設や公演に対する認知度向上にも貢献できた。	受付当日の定員到達が継続率低下の要因であり、このことは令和６年度事業の認知拡大の成果として評価できる。今後は、需要の高まりを踏まえ、定員の見直しなど制度の改善を検討する。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	当財団が管理運営する施設間の人事交流、広報及び技術部門の連携、会員制度や券売システムの統合運用による効率化を実施	財団管理職、係長級に北九州市職員の派遣を受け、密な意思疎通により施設運営・事業実施の財源を確保
目標(値)（※2）	現状の取組の継続、充実を検討	現状の取組を継続、人脈を生かし文化部以外の部局とのネットワーク構築を図る
実績(値)	財団が管理運営する施設間において、人材交流・広報・事務・経理・会員制度やチケット販売システムの統合運用など多面的な連携を継続した。自主公演事業では、共同開催する他館と運営・広報面での協働体制を構築したほか、県下の類似館との情報交換会や研修事業に参加した。	所管部局との定例ミーティング等を通じ、指定管理業務の方向性共有と年度予算確保に繋げた。教育委員会と連携する等、文化振興の裾野を広げるとともに、芸術文化を振興する北九州市の政策連携団体（旧外郭団体）としての役割を果たした。
団体の自己評価	他館との連携は、制作・広報コストの削減だけでなく、職員の専門的視野の拡大にも資している。内外を問わず、関連性のある業務は、協働することで効率化を追求した。	令和７年度の新指定管理期間スタートにあたり、設置者との対等なパートナーシップの構築が一層重要となった。定例会議の定着により意思疎通の質が向上している。また、文化以外の部局との事業連携実績を積み重ねることで、音楽堂の社会的機能の多面的な発揮に努める。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	実施している	実施している
目標(値)（※2）	現状を維持	現状を維持
実績(値)	現状を維持	現状を維持
団体の自己評価	音楽堂運営の芸術面を統括する人材として、今後も継続してミュージックアドバイザーの配置を行う。	音楽堂運営の経営実務者として総務文化部長、音楽事業課長を充て、今後も継続して配置を行う。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	実施している	実施している
目標(値)（※2）	現状を維持	現状を維持
実績(値)	現状を維持	現状を維持
団体の自己評価	令和７年度は制作・広報の各分野において外部研修・内部 OJT を実施し、職員の専門性向上を図った。持続的な人材育成体制の構築が引き続きの課題である。	持続的な音楽堂運営を実現するため、内部人材の管理職育成を進めるとともに、業務単位の統括者を「係長」とするなど、業務を推進するための役割分担を明確化した。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	実施している	令和７年度女性管理職　50.0%
目標(値)（※2）	現状を維持	現状を維持
実績(値)	現状を維持	現状を維持
団体の自己評価	令和７年度も若年層職員の採用・配置を継続し、世代間バランスの確保に努めた。短期契約職員を含めた音楽堂全体での世代バランス維持が重要であり、中長期的な採用計画の策定が課題となっている。	女性管理職比率は 50.0%と目標値（30%以上）を上回っている。引き続き管理職候補の計画的育成を進め、多様なリーダーシップが発揮できる組織風土を維持する。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	実施している	実施している
目標(値)（※2）	現状を維持	現状を維持
実績(値)	令和７年度は、北九州市が実施するイクボス・プレイクボス研修を係長以上の職員に展開。	現状を維持
団体の自己評価	令和７年度はイクボス・プレイクボス研修を管理職全員に展開し、育児・介護との両立を支援する職場文化の醸成を図った。	他団体における情報漏洩事象や内部の事務ミス等が発生した際には、可能な限り速やかに対応・改善を図ることで、コンプライアンスの順守に努めている。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	実施している	実施している
目標(値)（※2）	現状を維持	現状を維持
実績(値)	令和７年度は、カスタマーハラスメント対策マニュアルを策定し、全職員を対象に研修を実施。カスハラの定義、過去に発生した事例をもとにした対応方法などを学んだ。	令和７年度は、フリーランス保護法（特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律）に照らし、契約書に付随する仕様書等各種様式を見直すとともに、組織全体に周知を行った。
団体の自己評価	カスタマーハラスメント対策マニュアルの策定や弁護士による全職員研修実施は、公共文化施設の現場ニーズに即した取組である。良好な就業環境の整備が、音楽堂利用者に対するホスピタリティ向上に資するものと捉えている。	公正取引委員会に照会をかけるなど、現状の改善に適切な対応を行った。引き続き法令改正の動向を注視し、契約事務の適正化を維持する。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
本年度の事業は、響ホールの音響価値と企画力を基盤に、創造事業・インクルーシブ公演・国際性を軸とした多様な取り組みを展開し、複数の指標で目標を大きく上回る成果を挙げた。市外来場者割合が 35～38%に達したことは、広域的な集客力の向上と響ホールの存在意義を示す重要な成果である。 若手演奏家の育成では、出演機会や教育プログラムを通じて成長の可視化と“文化の循環”の形成が進み、オリジナル公演も年間 8 件を達成するなど、質的成果と創造発信の継続性が確実に積み上がった。さらに、アクセシビリティ研修の目標達成、若年層の新規開拓、貸館満足度 100%など、インクルーシブな文化参加の拡大と地域文化拠点としての信頼性向上も見られた。 一方で、全公演事業の満足度平均 92.6%（目標 95.0%以上）など、体験価値の向上に向けた改善余地も明らかとなった。今後は来場者の声を分析し、体験の質を高める取り組みを強化することで、より持続的な事業運営につなげていく必要がある。 総じて、本年度の事業は、響ホールの価値発信・創造事業の充実・文化参加の拡大において成果を示し、地域の文化資源としての存在感を一段と高めることができた。

備考